

平成29年度第1回 茂原市総合教育会議

1 期 日 平成29年4月7日（金）
開 会 午後1時15分
閉 会 午後2時55分

2 場 所 茂原市役所9階会議室

3 出席者

茂原市長	田中 豊彦
教育長	内田 達也
教育長職務代理者	齋藤 晟
委 員	鈴木 一代
委 員	安藤 明子
委 員	高貫 裕一郎

4 出席職員

教育部長	豊田 実
教育部次長（教育総務課長）	久我 健司
学校教育課長	鈴木 明
生涯学習課長	長谷川 伊智郎
体育課長	古山 茂成
中央公民館長	内山 千里
美術館・郷土資料館長	津田 芳男
東部台文化会館長	渡辺 健司
学校教育課主幹	平井 仁
教育総務課長補佐	川崎 弘道
教育総務課総務係長	東間 諭
教育総務課副主査	沼 崇之

5 傍聴人

0名

川崎教育総務課長補佐： それでは定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回茂原市総合教育会議を開会いたします。

構成員の皆さまにおかれましては、ご多用の中ご出席をいただき誠にありがとうございます。本日の司会進行を務めさせていただきます、教育部教育総務課長補佐の川崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年度第1回目の総合教育会議となります。昨年年第1回会議では、「学校再編計画」、「平成29年度の予算編成に向けた教育施策」についての協議を行いました。本日は前回に引き続きまして「学校再編計画について」及び「平成29年度茂原市の教育方針及び重点施策について」を議題といたします。大綱に掲げた4つの基本方針を実現するために、いずれも重要な議題となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、田中市長からご挨拶をお願いいたします。

田中市長： 本日は、平成29年度の第1回の茂原市総合教育会議を開催するにあたりまして一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。

新教育委員会制度がスタートしまして、2年が経過したところであります。内田教育長、教育委員各位におかれましては、新制度に基づいた適切な運営を行っていただき感謝申し上げます。

平成28年度から教育施策の大綱に基づきまして、各種施策を進めることとなっておりますが、教育の喫緊の課題として、少子化により児童・生徒が減少し、学校が

小規模化していることから、将来にわたりまして学校の適正規模が図れるよう、小中学校の再編を進めていかなければならないと考えております。

昨年の10月に審議会を立ち上げまして、半年間の審議を経て、3月16日に学校再編基本計画に関わる答申をいただき、3月23日の教育委員会会議で決定されたと聞いております。本日は、「茂原市学校再編計画について」を議題としておりますので、今後の進め方等について協議してまいりたいと考えております。

また、2つ目の議題として「平成29年度茂原市の教育方針及び重点施策について」をご協議いただきます。大綱に掲げた4つの基本方針を実現するために、政策的な見地からご意見をいただければと考えております。

教育の推進にあたっては、今後も十分な協議を行いながら進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

川崎教育総務
課長補佐

： ありがとうございます。
それでは、これより本日の議事に入ります。当会議の議事の進行につきましては、教育部長が行うこととしておりますので、豊田教育部長よろしくお願いいたします。

豊田教育部長

： それでは、議題に入らせていただきます。本日の議題は3件ございます。

久我
教育部次長

まず議題の(1)「茂原市学校再編計画について」事務局より説明をお願いします。
： それでは、議題(1)の説明に入りますが、その前に、本日午前中に臨時の教育委員会会議が開かれまして、西陵中学校、富士見中学校で学校選択制を行っていたものにつきましては、この4月1日の西陵中学校の入学人数が増加していませんので、学校選択制を終了する旨、及び平成32年3月31日をもって西陵中学校は富士見中学校へ統合し、閉校するということの議題につきまして、可決されましたことを報告させていただきます。

それでは、「茂原市学校再編計画について」説明をさせていただきます。

本市の学校再編につきましては、昨年10月から茂原市学校再編計画審議会において審議いただいておりますが、資料1としてお配りしてございます「茂原市学校再編基本計画」について序議、教育委員会会議でそれぞれ協議を行ってまいりましたところでございます。

資料2をご覧ください。

すでに学校再編の基本計画につきましては、3月23日の教育委員会会議で決定されておりますので説明は省略させていただきますが、今後の進め方でございますが、本年3月で議決されました茂原市学校再編審議会条例に基づき、新たに審議会の委員を委嘱し、基本計画に基づいて実施計画の策定を行ってまいります。審議会は、5月18日に第1回を開催し、9月下旬まで5回程度の開催を予定しております。その中で実施計画の策定を進めてまいります。次に、5月14日の日曜日でございますが市役所の市民室で、同じく28日の日曜日に本納中学校におきまして説明会を予定しております。その後、7月頃に実施計画にかかる地元意見交換会を開催する予定で事務を行っております。

実施計画を策定し、学校の統廃合を進めるにあたっては、様々な困難やご意見が出るのが予想されます。今後の進め方等についてご協議をいただきたいと思っておりますのでお願いいたします。

協議内容についての1点目として「今後の実施計画の策定」についてご意見をいただきたいと思っております。

例えば、実施計画策定にあたっての目標設定についてですが、今後、適正規模を満たさない学校について統廃合すべきかどうかを検討することになります。現時点での人数をもとに単なる数字合わせで適正規模を満たすだけでなく、5年後から10年後に再度統廃合を検討する必要性が生じ、保護者や子どもたちに負担をかけてしまう可能性もあります。そこで、将来を見据えた統廃合を検討すべきと考えておりますが、その点についてご意見をいただければと考えております。

また、「統廃合にあたり学区の設定をどうすべきか」、「その他の留意点」などについてもご意見をいただければと思っております。

2点目といたしまして、7月中に住民説明会の開催を予定しておりますが、今後の住民対応についてのご意見をいただければと思っております。

具体的には、説明会は7月中に予定しておりますが、基本的には計画の決定前に

様々な市民のご意見を聞くことを目的としています。また、市の広報や市のホームページでの周知、小中学校、幼稚園、保育所等の保護者へのアンケートや文書配布なども考えております。今後の住民への周知や様々な意見についての対応について、ご意見をいただければと思います。

説明は以上になります。よろしく願いいたします。

豊田教育部長

： ありがとうございます。
ただいま「茂原市学校再編計画について」の説明がございましたけれども、まず第1点目の協議事項としまして、実施計画策定にあたっての目標設定についてご協議をいただきます。

今の説明のとおり単なる数字合わせではなく、5年後、10年後を見据えた統廃合をするにはどうしたらいいのかなど、ご意見をいただきたいと思います。

それでは、まず高貴委員からご意見をいただきたいと思います。

高貴委員

： この実施計画にあたっては、5年後から10年後を見据えてということで、第一次、第二次と2段階に分かれていると伺っております。基本計画の15ページに学校規模ごとの基本的な方向性という中に書かれておりますが、「1～5学級」に関しては「速やかに統合する」と示されておりますので、これに沿って「1～5学級」については、速やかに統廃合されるということで、第一次で行われるのではないのかなと私は考えます。6学級以降については、「今後」というふうに書いてあるのですが、この「今後」というのが第一次で該当しないのであれば、第二次で対象と成りうる可能性があるということ当該地区の学校、周辺の住民の方々にもお伝えをして、今回の西陵中学校の話ではないですが、ここまでこの位の増加が見込めなければなりませんという方向性をあらかじめ示しておく必要があるのではないのかなと思います。それが混乱を生まないで済むのではないのかなと考えます。

あと学区の設定というところなのですが、これは統廃合を考えていく中で、学区のこともいろいろあると思うのですが、今も例えば小学校区ごとの育成会などを見ておりましたが、自治会として育成会を通じて学校にかかわるという機会が非常に多いと思います。ですから、自治会の意見というのは重要になってくるのだと思うのですが、自治会単位でまとまれるような方向で学区を考えていければ良いのかなと思います。将来に渡っての児童生徒数の増減を見ていくと、増加が見込めないという学校もいくつかあるように思いますので、例えばそれを統廃合するときに、発展的に未来志向に統廃合していくという考え方で、例えば小中一貫というような形で一つの施設の中に小学校、中学校を造るというようにして対応するという考え方も持ってみたらどうなのかなと思います。ただ単に統廃合することでは、マイナスイメージになる可能性がありますので、統廃合することによって、こんなメリットが生まれるとか、今までにはない教育施策をここでは取り組むといったような発展的な未来志向な統廃合を考えていただければ良いかなと個人的には思います。

豊田教育部長

： ありがとうございます。次に安藤委員お願いします。

安藤委員

： 高貴委員の意見も大変参考になると思いますし、基本計画の4ページ、5ページの小学校と中学校の児童生徒数の減少は、ほぼ全校で減少するであろうという見込みになっていますし、今後増える見込みがないかもしれないことを踏まえますと、全体的に統廃合など再編していかなくてはいけないというのはもう差し迫っていると思います。速やかに統廃合を行うべき学区があれば、そこは検討していくことを進めていくべきだとは思っています。今までもいろいろな話し合い等をしてこられていると思いますし、説明会はこれから行うと思うのですが、保護者へのアンケートを昨年度に行っていますし、これから地域の方、自治会の方、いろいろな方にご意見をいただくとは思いますが、実際に通っているのは子どもたちなので、当事者の子どもたちの意見も私は聴いてみたいと思います。困っていることとか、学校生活で改善して欲しいこととか、通学路の問題点など、子どもが通っていて何か感じていることがあるのであれば、将来子どもたちが茂原で生活して、家族を持って、親になって、また子どもが通うかもしれませんし、将来茂原市を担うお子さんたちの意見というのも聴いてみては良いのではないのかなと思います。

例えば、小学校であれば児童会、中学校だと生徒会、そういうところで全校集会や皆さんにアンケートを取るなど、いろいろな手段があると思うので、どんな意見を持っているのか耳を傾けてみてはいかがかなと思っています。同時に、やはり学

校の現場にいる先生方の意見もお聴きしてみたいなと思います。先生方もいろいろな課題を感じているのではないのかなと思いますので、統廃合に向けての意見も聴いてみたいなと思います。

以上です。

豊田教育部長
鈴木委員

： ありがとうございます。次に鈴木委員お願いします。
： 私も皆さんがおっしゃっているようなことはやはり考えておりましたし、当座しのぎの計画ではなく、しっかりとしたものと考えていかなければいけないと思います。そして、市民に余計な混乱を招くような、期待を持たせるようなやり方ではまずいだろうと、速やかに進めていかなければいけないところはやはり速やかに進めなければいけないだろうと思っております。それから、計画では、第一次が4年、第二次が5年となっていて、数字的には2040年までの推計が出されているので、ずっと先のことも見込んで骨太の計画を作ることが必要なのかなと思いました。

あと、学区の問題もある訳ですので、高貫委員から意見がありましたけれども、いろいろな可能性はあると思います。ですから、安藤委員の意見にもありましたが、いろいろな人の意見、もちろん意見だけを聴いていくとまとまらないのですけれども、やはり意見を参考にしながらよりよい方向を求めていく、小中一貫校という言葉もありましたが、先進的に進めているところもあるので、これのメリットやデメリットも調べていけば出てくることもあるだろうし、ただ学級数ということではなくて、そういう可能性も含めていろいろ検討しながらしっかりとした考えをもって進めていくことが一番大事なのかなと思っております。

豊田教育部長
齋藤委員

： ありがとうございます。齋藤委員お願いします。
： 私はちょっと切り口が違っていると思いますけれども、やはりこの学校の再編に関します基本的な考え方として、これから子どもたちが少なくなるというのは万人が認めるどころことです。一度決めたことでこれからずっといくとは誰も思っていないのですから、やはり教育効果を高めるという意味で、適正規模を維持していかなくてはいけないのだと、また適正規模を維持していきたいという気持ちですね、そういう思いをまず市民の皆さんに知っていただくことがまず先決かなと思います。そんな中で、今度改めて先生や地域の方、保護者あるいは子どもたちの意見を聴いてみると、そうでないとそれこそ話がまとまらなくなってしまいますから、まず基本的なものの考え方を示しておいて意見を聴くと、それで参考にできるものは参考にしていくと。

あと、西陵中学校と富士見中学校については、これは特例であって前例にしないようにした方が良いのかなという思いはしております。

私の考えは以上でございます。

豊田教育部長
内田教育長

： ありがとうございます。内田教育長お願いします。
： やはりこの基本計画の15ページの表が一番大元になっている訳で、この表の中で「速やかに統廃合する」というのは、小学校では「1～5学級」ということで、ただ、具体的な学校名を出していつまでに統廃合するというのは、これから実施計画を策定するにあたって審議会に諮問して行うことなのですが、この表で見ると、新治小学校が「1～5学級」に該当していて、市内で複式学級を持っているのは新治小学校だけですので、まず真っ先に実施計画に入ってくるのかなと思います。その次に、この15ページと4ページ、5ページを見比べると、小学校では次に「6学級」に当てはまるのが二宮小学校と緑ヶ丘小学校になります。中学校では、「速やかに統廃合する」というのは「1～2学級」と「3学級」ですが、「3学級」に該当するのが西陵中学校、「4～5学級」は無く、現在ですが「6～8学級」に該当するのが早野中学校と本納中学校になります。

やはり2040年、ずっと先まで見ていくと、その間に統廃合を検討する学校が多くできてしまう訳なのですが、この1点目の協議事項として、先を見据えて何度も統廃合をしないというふうになってはいますが、あまり先を見据えて将来こうなるだろうからここもというのは、この9年間では自分としてはまだ難しいのかなと思っています。午前中の会議で西陵中学校と富士見中学校を平成32年に統合するということが決まりました。これが一番先にやらなければいけないことで、これはもう決まったので、保護者、地域の方にこう決まりましたと、それこそこれから説明に行く計画が先ほどの資料に出ていましたが、そこで説明をして混乱なく早く収めなければいけないと思います。その次にやはり新治小学校がおそらく実施

計画の中で出てきたときに、資料2でいくと地元説明というのが7月となっていますが、新治地域の地元に行って説明しなければいけないということになってくると思います。あと、二宮小学校と緑ヶ丘小学校についても、もしかしたら実施計画で出てくることになれば地元説明に行かなければいけないということになってくるのですが、一つずつをしっかりと解決していくということを考えたときには、現在の学校の子どもたちの人数でこの基準の中の一番早くやらなければいけないものから焦点を合わせて固めていくことが必要だと思います、この地元説明会を一举にいくつも行うということは、手分けして行かなければいけないことになりしますので、できるだけ焦点を絞りながら固めていくことが必要なのかなと、私はきちっと固めていくためには、そういうある程度今の人数でこうだということを見定めて取り組んでいく必要があると思っております。

安藤委員からの意見でありましたが、子どもの意見を聴くということは大切なことだと思うのですが、やはり聴く内容によっては子どもが保護者や地域の方々の意見に左右されるということもありますし、逆に言うと子どもにはそういうふうにして導いてあげなくてはいけない面もあると思うのですが、子どもは案外この学校がなくなるのは寂しいとか、そのような思いだけで意見を述べる場合もあると思しますので、見極めてあげないといけないのではないかなと思います。

以上です。

豊田教育部長 : ありがとうございます。それでは最後に田中市長のご意見をいただきたいと思

田中市長 : 審議会で議論をしていただいて、パブリックコメントをいただいて、いろいろな方針が出てきた訳ですけども、目標設定ということであれば、5年から10年を見据えてということで、今回、西陵中学校と富士見中学校が統合することになったようですが、何でもそうですが、総論は皆さん賛成するのですが、各論になると皆さんそれぞれのいろいろな意見が出て頓挫するケースが非常に強いです。特に学校だけではなくて、いろいろな統廃合といったときには、そこが一番のネックになってくるので、本来は西陵中学校と富士見中学校ももっと早い段階で統合できれば、私としては非常に良かったのかなと思っておりますが、保護者というよりもむしろその地域の方、そういった方たちの反対意見が特に西陵中学校の方から強く出たものですから、今回の平成32年というまだ先の統合ということになったのですけれども、これはやはり子どもたちにとっては非常に不幸だと思っております。PTAの保護者からの意見は、とにかく早くやってもらいたいと、早い段階で速やかに統廃合するような状況の学校があるのであれば、目標年次をしっかりと決めて、それに向かって行動していかないといけないのではないかなという気がしています。特にこのあと問題になってくるのが先ほどから話が出ていたように新治小学校ですが、新治地区の保護者の方は一日も早く統合したいというような話を一部聴いております、このまま総合教育会議で日程を組みながらだんだんやるよりは、早めにいつというような方針を決めた方が子どもたちにとっても非常に良いのかなと思っております。私が何でこういうことを言うかと言いますと、今までは学校だけではなくて、行政の中でいろいろな難題がございました。その難題を処理するには、やはり目標年次をきちっと決めて対応することによって解決してきた事案があり、そうでないとできないというのが私の経験上から常に思っておりますので、これはですね、はっきりとした形でいつまでにこういう方向で検討していただきたいということをこの総合教育会議から出した方がいいのではないかなという気持ちがございます。従って、将来を見てどうのこうのという話になると、また上手くいかないことがありますので、これは避けて通るべきではないかなと思っております。

それから、学区の設定に関しては、やはり地区で考えるべきではないかと思っておりますので、その際に一番の問題になるのは通学の手段とかあるいは安全性、こういったことが一番ネックになってきますので、ここは十分考慮して、すでにそういうことに取り組んでいるところがいっぱいあると思っておりますので、真似しても良いし、また別の方法があるのであれば検討していただきたいと思いますと思っております。おそらくいろいろな難題があると思いますが、そういうことに左右されずに目標年次を決めて取り組んでいかないと、これはまずできないとそういう思いでいた方が良くと思います。西陵中学校と富士見中学校も、平成32年で統合できるというこ

とですが、私からすれば遅いかなというような感も受けておりますので、本来であればもっと早くやるべきだったのかなという気がしておりますけれども、ここは本当に難しいのですが、ただ子どもたちのことを考えた場合にはそれは最善の策ではないかなと、こういう思いでおります。子どもの意見、PTAの意見、あるいは学校の先生の意見もあると思いますが、聴くといろいろな話になってきますので、方向性だけきちっと先に出したほうが良いような気持ちを持っております。

生徒の数が増えていくか、子どもたちが増えていくかということですが、基本的には今の段階ではまずありえません。今一部で、木更津が増えているのですが、これは特殊な事情で増えているということで、それ以外の要因としてこの地域で増える要因というのはよっぽど素晴らしい教育方針を掲げて魅力ある教育方針で手を打てると、こういうことであればまた違いますが、例えば先ほど言ったように小中一貫でも、特殊性のある最先端の教育方針を持った進学校のような形で取り組まないと、生徒の数が増えるということはなかなか難しいと思っています。

もう1つの要件は、毎月人口統計見えていますけれども、出生率は圧倒的に少なく、死亡と出生とを比べますと約倍ぐらい違ってきているという現実がございますので、これはやはりなかなか難しいかなと思っています。いろんな形で、親御さんになる若い人たちを呼び込もうと思っておりますが、新治の工業団地とか、いろいろな企業誘致に向けて取り組んでいこうとは思っておりますが、それだけでは今の状況ですと難しいかなと思っていますので、方向性をとにかく早めに、子どもたちのためを思うのであれば、方向性を出して取り組んだ方が賢明かなと、これをまた先延ばしていろいろと意見を聴きながらでは、おそらくあと5年、10年経ってもなかなか決まらないようなことになると思っております。これはですね、2年後にやるとか、3年、5年後にやるとか、そういった方向性をしっかりと出して取り組んでいくべきだと思います。

私からは以上です。

豊田教育部長 : ありがとうございます。皆様からさまざまなご意見をいただきました。特にこの基本的な方向性、複式学級が存在する学校は速やかに統合するとか、この基本的な方向性が基本計画に出されているので、まずはそれに則ってきちんとした方向性を示すと、そしてその一つ一つを確実に固めて遂行していくと、そして特に我々の熱い気持ちを住民に分かってもらうというところで進めていきたいと思っております。皆さんからいただいた意見を実施計画に反映させるように努力してまいります。ありがとうございます。

それでは第2点目ですが、子どもの意見を聴くなど、いろいろなご意見もありましたけれども、今後、この学校再編を進めていく中で住民への周知が必要になっております。教育委員会では、説明会なども計画しておりますし、広報やホームページ、また小、中、幼稚園、保育所へのアンケートなども考えておりますが、さらに住民へ周知する良い方法等があれば、ご意見をお伺いしたいと思います。

では、また高貫委員からお願いします。

高貫委員 : 住民の方へのアンケートなどで意見を聴くというのももちろん大事だと思うのですが、それもさることながら、教育委員会としてこのように取り組んでいくというようなこちらからの発信をすることも同時にすごく重要だと思いますので、基本的な計画をまとめたら、私たちはこういう強い信念のもとにこういう計画を進めているということを上手く発信していければ良いのではないかなと思います。その中で、とかくこういう話になるとちょっと難しくとられてしまったりするのですが、例えば茂原市としての一大プロジェクトだと思うので、こういうプロジェクトを行うときには、タイトルというか、テーマみたいなものを設けて取り組んでいった方が、住民の方の受けが良いのかなと私なりに考えました。そう考えた時に、この学校再編は誰のためにやるのかという根本的な部分が、地域の住民の方の意見も大事ですけれども、すべては子どもたち、学校に通う子どもたちのために統廃合を行う、そこを例えば強く押し出すというためには、これはすべての子どもたちのための統廃合なのだというサブタイトルのようなものを付けて、住民の意見を聴く会だとか、住民説明会で、このプロジェクトのタイトルを付けて臨むというのはどうなのかなと思います。先ほど小中一貫とは、発展的な統廃合というように話をさせていただいたのですが、そういう未来志向の、これを行うことによってさらに良くなるというのを示せるような、上手く言えませんが、何かこう住民にこの

一言、このフレーズで伝わるといふものを提示できればいいのではないかなと思います。

以上です。

豊田教育部長
安藤委員 : ありがとうございます。では、安藤委員お願いします。
: この周知の件ですが、説明会等を今後行っていくと思いますが、やはり私もマイナスのイメージがあると思うので、これを前向きに将来のためになるプラスのイメージになるような説明会をしていくべきだろうと思います。皆さんやはり不安になると思いますので、学校が無くなるっていうのはやはり皆さん喜ばないと思いますので、こういうふうには将来なりますというイメージを皆さんに見せていくというのが一番良いと思います。ここでも広報やホームページというのもありますし、文書配布ももちろん重要だと思いますし、あと自治会とかでは回覧板等も回っていると思いますし、そういうもので徹底していくのが良いかなと思います。

以上です。

豊田教育部長
鈴木委員 : はい、ありがとうございます。鈴木委員お願いします。
: 学校再編を進めていくことが、すごく子どもたちにも保護者にも地域にとっても良いことだということをやはり全面的に出していくようなそういう方法が一番大事かなと思います。私もホームページはなかなか開きませんし、それから回覧というに関心を持っている方はすごくよく見てくれるのでしょけれども、ただ回覧されてしまっているところがあるので、今良いことをおっしゃって下さったなと思ひまして、タイトルを付けたら方法はいろいろとあるかと思うのですが、こういうことを行っていくことで子どもたちにとっても地域にとっても茂原市にとっても良いことだということであれば一番良いかなと思います。

豊田教育部長
齋藤委員 : ありがとうございます。齋藤委員お願いします。
: 住民への周知ということですが、私はまずは該当する学校へ行ったらいかかかなと思います。そして直接住民に説明する、もう一回言いますけれども、教育効果を高めるために出来るだけ適正規模に近づけるのだと、学校再編を進めていくことが子どものために良くなるのだからいついつまでにこうしますからどうか協力してくださいと、これだと思います。あと細かい事はあまり立ち入らない方が良い、かえって分からなくなると問題を複雑にするだけだと思います。

以上です。

豊田教育部長
内田教育長 : ありがとうございます。内田教育長お願いします。
: ホームページとか広報とかも大切ですが、地元に行って説明をするということが大切だと思います。ですので、この資料2の7月上旬と下旬に書いてある地元意見交換会ということがすごく大切になると思います。それで例えば、新治小学校と本納小学校をあと5年後に統合するというように実施計画で決まったら、先ほど市長がお話したように、そこまでにやるということは大切だと思います。それとはまた別に、地元意見交換会ということについては、やはり地元に行って意見を聴いてあげることが大切だと思います。意見を聴いて延ばすということではなくて、よく聴いて参考にできることがあれば参考に取り入れるということ、やはり丁寧に何回も聴いてあげる、そしてこちらの思いを説明してあげるということで、お互いに少しでも心が伝わり合っていければ良いのかなと思います。ですので、この実施計画が決まる前に地元交換会を行うということになっていますので、例えば実施計画で新治小学校と本納小学校を統合するというようなことが出てきたときに、実施計画が決まる前に地元に行って意見を聴く訳ですが、その時にまた意見交換会をやってくださいということがあれば、回数を重ねて丁寧に聴いてあげるとことは大切なのかなと思います。この地元意見交換会というのが、資料では7月中に終わるようになってはいますが、場合によってはこのところというのは統廃合する日にちが延びる訳ではなくて、この辺というのは丁寧にやっていく必要があるのかなと思います。そうすると、9月下旬に実施計画を公表となっていますが、場合によっては少し延びてしまうことがあっても丁寧に、膝を突き合わせるまでいかないかもしれませんが、そういう態度と姿勢でお話を説明して聴いてあげるとことは、私はやる必要があるのではないかなと思います。

以上です。

豊田教育部長 : ありがとうございます。田中市長お願いします。

- 田中市長 : 住民周知と皆さんよく言うのですが、特に行政で広報を毎月のように出して、あるいは自治会会報を回覧したりとか、ホームページで知らしめるということでやらせていただいておりますけど、これほど当てにならないものはないです。これはもうすでに口をすっぱく広報にも言っているのですが、要するに下手だと、メッセージが伝わらないと、いくらどんな媒体を使ってもなかなかうまく伝わらないと、これはもうはっきりしているの、じゃあどうするかということですが、やはり今教育長が言ったように、特に関係する保護者あるいは子どもも含めた地域の方たちに、いろいろな話が出てくるとは思いますけれども、丁寧に説明をすべきではないかと思っております。したがって、地元意見交換会が2回しかないということではなくて、機会があれば何回でもやっていただきたいと、そうすることによって、方向性だけはもう決めてあると思っておりますので、その方向性だけを分かりやすく説明していけば理解していただけるのではないかなと思っております。何度も申し上げます通り、やはり統廃合するのであればいつまでというようなことをきちんと出して、進めていただきたいと思っております。これがやはり子どもたちにとってプラスに働いていくと思っておりますので、お願いしたいと思っております。住民周知はいろいろな媒体を使うのも良いですけれども、基本的には見ないです、関心のあるところしか見ないし、見る人はしっかりと見る方も中にはいると思っておりますが、ごく稀と思った方が良く思っております。そういうことで、これは非常に難しいと思っておりますので、私からまず言わせておいていただきたいと思っております。地元に行ってよく説明するしかないかなというようなところでご理解をしていただきたいと思っております。
- 豊田教育部長 : ありがとうございます。それではいろいろな意見をいただきましたけれども、とにかくこの説明というのは難しいと、子どもや住民に対しては何度も行って、意見を聴いて、話をして、教育委員会からは十分な説明をしていくということとをさせていきたいと思っております。
また、この学校再編を進めていく上で、とにかく子どもたちにとってより良い環境を確保するというを第一に進めていくということで、共通理解とさせていただくということでもよろしいでしょうか。
- 内田教育長 : 一つよろしいでしょうか。14ページなのですが、昨日も部内で、今日の教育委員会会議で西陵中学校と富士見中学校の統廃合がもし決まったときにPTA総会に行くと説明をすると、それから地元説明会の際にどういうことを説明しておかなければいけないのかとか、どういうところを留意しなくてはいけないというような話をしたときに、先ほど高貫委員がテーマ、タイトルと言ったように、やはり子どもたちのために子どもたちの教育環境を充実させるというのが最初に根底にあると思うのです。この14ページの(2)で「再編後の教育施設等の充実」ということが書いてあって、例えば西陵中学校と富士見中学校を統合したときに、どうしても施設は西陵中学校の方が良いと、富士見中学校の方が傷んできていると、ただ富士見中学校を建て替えると大規模に改修するというのは無理だけれども、ここに「児童生徒が安心して学習できるよう、再編後の施設(校舎、トイレ等)の改修に努めます。」というのがあって、やはりトイレ等については富士見中学校の方がまだ十分整備されていないということがあられるらしいので、例えばトイレだけでも良いので、統合に向かって富士見中学校のトイレが整備されたとか、そういうことがあると、今後のそれ以外の統廃合を進めていくためにも、統合するとこういうふうなトイレが良くなったとか、そういう無理のない中で少しでも実現できていくと良いかなと思っております。
- 鈴木委員 : 再編していく中で、やはり早い段階の統合の対象校に対する手厚い対策というのが必要だと、大事なな私も思っております。
- 豊田教育部長 : 他に何かご意見等はございますか。それでは、この総合教育会議としましては、とにかく子どもの教育環境を第一に考えて統合するのだと、学校再編を進めるという共通認識でよろしいでしょうか。
- 各構成員 : はい。
- 豊田教育部長 : そして、説明会等を行いますけれども、もしよろしければ教育委員の皆様もその説明会にご参加いただければ非常にありがたいと思っております。
それでは、そういうことで共通理解の方をよろしくお願いいたします。
次の議題の(2)「平成29年度茂原市の教育方針及び重点施策について」事務局よ

- り説明を求めます。
- 久我 教育部長 : 議題(2)「平成29年度茂原市の教育方針及び重点施策について」ご説明いたします。資料は3になります。
- 茂原市の教育方針及び重点施策については、毎年度、当初に茂原市後期基本計画及び教育施策の大綱に基づき策定いたしまして、この方針に基づき各種事業を実施しております。平成29年度、今年度の主な取り組みをご説明いたします。
- 資料3の1ページをご覧ください。
- 基本方針の1の中で「(1)学力の向上」では、「特色ある学校経営と次期学習指導要領の実施及び移行期間を見据えたカリキュラム・マネジメントの促進に努めるとともに、主体的な学びや思考力・判断力・表現力の育成の視点からの授業改善と多様な体験活動を推進します。」「子どもたちにとって、よりよい教育環境を整備するため、学校再編基本計画に基づき、学校再編実施計画を策定します。」。
- 「(2)幼児教育・保育の充実」につきましては、2ページをご覧ください。「幼保一元化を見据え、幼稚園及び保育所の連携の推進に努めます。」「公立保育所・幼稚園整備計画により、民間事業者による認定子ども園設立を目指します。」。
- その下「(3)読書活動の推進」では、「本に親しむ意欲と態度を育成する読書活動の充実を努めます。」「学校司書の配置を段階的に進め、図書館と連携を図りながら、読書環境づくりに努めます。」。
- 「(4)国際理解教育の推進」では、「小学校における英語の教科化に向け、教員の指導力の向上を図り、E L Tを各校に配置し、指導の充実に努めます。」「中学生等海外派遣事業では、中学生28名、教員等3名の計31名を姉妹都市オーストラリア・ソルズベリー市に派遣します。」。
- 3ページをご覧ください。基本方針2の「(1)いじめ・暴力行為等の問題への取り組みの徹底」では、「いじめに対応する校内委員会を活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めます。」「関係機関との連携を図り、協力していじめへの対応を図ります。」。
- 「(2)道徳教育の推進」では、「若年層教員を中心に、道徳の指導法に関する実践的な研修を位置づけ、指導力の向上に努めます。」。
- 6ページをご覧ください。基本方針3の「(5)スポーツ・レクリエーションの普及」では、「生涯スポーツを通じて市民の健康づくり、体力づくりを推進するため、本市発祥のスポーツ「タッチバレーボール」及び「ラジオ体操」の普及に努めます。」、「総合型地域スポーツクラブについて、本市の実情に適したクラブの設立に向けて検討します。」。
- 基本方針4の「茂原を愛する心の育成」では、「(2)安全・安心な教育環境の確保」として、「本納公民館・本納支所複合施設の整備を進めるなど、社会教育・文化施設の適切な整備・維持管理に努めるとともに、設備等の充実に努めます。」「安全・安心な給食を提供するため茂原市学校給食センターをP F I方式により整備します。」。
- だいぶこれだけの資料を端折ってのご説明で申し訳ございませんが、以上、ご審議の程よろしく願いいたします。
- 豊田教育部長 : ありがとうございます。「平成29年度の教育方針及び重点主要施策について」説明がありましたが、資料の中では平成29年度の取り組みとして主要施策の方向性が示されております。教育施策の大綱に基づいて、各種施策と事業を実施してまいりますけれども、ここに書かれている以外で具体的にどのような事業に取り組むべきなのか、取り組んだ方が良いのか等のご意見がございましたらお願いしたいと思います。
- 高貴委員 : 先ほどと同様に高貴委員からお願いします。
- ここに書いてある「いじめ対策」、「学力の向上」、「道徳教育」などですが、まず学力の向上ということと言いますと、先月の教育委員会会議でも質問させていただきましたが、子どもの貧困という問題があったりしまして、茂原市に限ったことではないと思うのですが、特に中学校、小学校高学年から中学校になってきますと、塾に行かないとなかなか学力が上がらないというか、塾に行ってもその先の進学の道も変わってくるとか、そんなことが保護者の間では言われているようなところがあります。確固たる根拠がある訳ではないのですが、そんなこともあってほとんどの子どもが塾に通っている、塾にかかわる経費がかなりかかっているという現状があ

ろうかと思います。そんな中で、やはりそういったところに通えない子どもたちというのやはり中にはいますし、そうなるとなかなか学力というものがないという現状もあるように聞いております。全部が全部そうではないと思いますけれども、そういう子どもたちを対象にした何か課外スクールとか、他の市でも取り組んでいるというのを新聞などにも出ておりますので、そういったものをうまく活用して、今も社会福祉協議会で取り組んでいるというお話を聞きましたけれども、もっと充実して何か良い方策ができないものかなと考えます。うまく表現はできませんけれども、そういった子どもたちにも手厚いケアをしていただければなと思います。

それから、いじめ対策、道徳教育などということですが、こういうことをやりましょうとか、ああいうことをやりましょうというのはなかなか思い浮かばないのですが、よくよく考えてみると、今親同士の問題というのが学校の中に持ち込まれて、親同士のトラブルがそのまま子どもたちに発展したりとか、子どもたちの人間関係にかかわったりするということをよく耳にします。ですから、子どもだけの問題ではなくて、やはり親の問題というのも多々あるように思います。その中で、今は社会での人間関係が希薄になっていて、人と人の繋がりがどんどん無くなっている、その1つに自治会に加入しないとか、学校でもPTA活動はやりたくないとか、そういう皆と一緒にやるものについてどんどん敬遠していく、それによって孤立していく、家族が孤立していくとか、そういった傾向もあって、なかなか人とかかわりがうまくできない、いじめもそうですし、不登校もそういったものに起因するのではないのかなと私なりに思います。その中で、この重要施策の最後に書かれている「茂原を愛する心の育成」の中の「(4)学校・家庭・地域連携によるコミュニティの形成」、これがやはり一番こういうものにもかかわってくるのではないかなと思います。地域ぐるみで子どもを育てるというよくのぼりが立っているのですけれども、これがどれだけ実現できるのかなということがこういうものの解決にもかかわるような気がしています。そんな中で、例えば社会とかかわりをもった学校の職場体験に関しましても、それぞれの学校で学区にある職場にお願いをして体験を行っていると思うのですけれども、そういうことで学校の先生方がご苦労されているというのも聞いたことがあります。そんなときに例えば商工会議所の青年部は、そういった職場体験をやらせたいということで、有志が取り組みをしているとかということも聞いたりしますので、もっと横の繋がりを持って、例えば商工会議所とか市役所の商工観光課とか、そういったところと連携をしながら全市的に子どもたちにそういった体験の場を提供できるような、一元的に管理して全体が上手く回していけるような仕組みが作れば良いのではないかなと思います。

まとまらないですが、多くの方が子どもたちの教育にかかわれるような仕組みづくりが上手くできれば、こういういじめとか道徳教育というの少し変わるのではないかなと思います。

以上です。

豊田教育部長
安藤委員

： ありがとうございます。それでは安藤委員お願いします。
： 基本方針と合わせて平成29年度の取り組みを見せていただきましたが、いじめ対策の件ですが、いじめもそうですし、ここに不登校という言葉があまり出てこなかったのですけれども、やはり教育委員会等で知らなかったという訳にもいかないと思いますので、例えば前期・後期の2学期制になっているところは、まとめて不登校の人数がこの位いるとか、そういう把握をしていただいて、いじめの件数というのはあまり件数としてあがってくるかどうかは分からないのですけれども、でも知らなかったというよりは教えていただけたら良いかなと思います。

それから学力の向上ですが、これから学習指導要領が変わるので、それを見据えたカリキュラムというのも変わっていくのだと思うのですけれども、学力の向上の中に無かったもので、家庭学習ですか、先ほど高貫委員は通塾の件を話していましたが、やはり宿題とか、復習とか、習慣づけていけば学力も上がっていくのではないかなと思うので、そういう部分もどこかに入っていると良かったかなと思いました。

以上です。

豊田教育部長
鈴木委員

： ありがとうございます。次に鈴木委員お願いします。
： 学力の向上からですけれども、やはり学習するその基本的なものをどうやって身

に付けさせたら良いかというのがなかなか難しいのですけれども、以前に新規の教員で秋田から採用された方が、家庭学習がとにかく徹底していたということがあったのですが、なかなか家庭学習を徹底させるということが難しいことなのですが、そういう習慣をつけてあげられる、もちろん先ほど高貫委員がおっしゃったように教育の貧困な子どもたちに対する手当もあるかと思うのですけれども、そういう基本的なことを何とか身に付けさせるということがまず大事だろうと、ではどうしたら良いのか、答えはと言われたら私も出せないのですが、それは一つ大事なことなのかなと思います。

それから、道徳が特別な教科ということで教科化されていくということですが、やはり子どもたちがいろいろな体験を持っている中で、こういうことはしてはいけないとか、こういう時にはこうするのだとか、もちろんそこで答えはこうだよということは無くとも良いかと思うのですけれども、やはりそういうものが家庭の中で育ってくる、身に付いてくるものだろうと思ったときに、家庭教育の大切さをお父さんお母さんも仕事をもって忙しいのだけれども、その家庭教育の大切さを何とか伝えていければもう少しまた違った面も出てくるのかなと思います。

いじめは、学校で何回か、県で調べるのは年間1回か2回位だろうと思うのですが、学校ごとにそれぞれ工夫をして、いじめのことについては細かく配慮して調べたりしてくださっていると思うのですが、先ほどお話も出しましたが、茂原の実態はこうですよと、福島から避難をしていた子どもたちが口には出してはいなかったいじめがあればたくさんあったのだというのを私たちもまた知ったところでもあったので、そういうものについてもあれば、私たちもこの中で話し合っていかなければいけないところなのかなと思っています。

豊田教育部長
齋藤委員

： ありがとうございます。齋藤委員お願いします。
： 重点施策について具体的にどのような事由に取り組むべきかということですが、この資料3に書かれているまさにこの通りだと思います。ただ、たくさん並んでいて、取り組むのも大変だなと思いますが、豊田部長が言った熱意を持ってやっていただければと思います。

それから、これは永遠のテーマになってしまうのですけれども、シティセールスできるような何か特徴が出せれば良いなと思います。それを皆で考えていけたらいいなと思います。全部取り組むのも大変でしょう、全部取り組んでいかなければいけないのだけれども、その中で市はここがよそと違うよというようなものを打ち出したら良いなと感じました。

豊田教育部長
内田教育長

： ありがとうございます。次に内田教育長お願いします。
： 1つはこの中に書かれていることと重なるのですが、学力向上という面ではやはり学習指導要領が新しく改訂されたので、その学習指導要領の実施に向けて各学校の準備が大切になってくるのかなと思います。今度の学習指導要領の中で、小学校の英語活動が5、6年生で教科化されていくということ、それから道徳が特別な教科ということで教科化され、そういうものを実施できるような準備を各学校に向けて指導していくということが大切なのかなと思います。この中には道徳のことも書かれていますし、英語のことも書かれていますので、英語については茂原小学校が教育課程特例校という指定を受けて英語の教育を先進的に取り組んできていますので、今回の人事異動で去年まで茂原小学校の教務主任だった方が学校教育課に来ていますので、その辺と茂原小学校に英語教育推進リーダーも配置されていますので、東上総教育事務所等と連携して、5、6年生は授業時数が1時間増えるということになっていますので、その辺のところをどうしていくのかという準備を進めていっていただけるかなと思います。

それから、齋藤委員からシティセールスという話もあったのですが、この間市長から提案されたのと高貫委員が先ほど話していたことが関連しているのですが、茂原にはいろいろな企業があって、そういう企業の工場等を子どもたちに体験させたり見学させたり、そういうことをして教育に役立てていくと茂原の特色あるものができるのではないかなと市長からもこの間ご提案をいただいたこともあるのです。それと先ほど高貫委員が話していた商工会議所では職場体験等をやらせてみたいというのがあるということなので、それからこの間、あるお医者さんが茂原を愛するという意味で茂原の良さを伝えたいので、何人かのお医者さんが各学校に出向いて子どもたちにそういう茂原の良さを話してあげるからそういう

場を設定してくれないかという話もありました。大体そういうことが繋がってくるのですが、その時に今は茂原だけではないのですが、長生郡一斉にAEDの講習というのを中学校2年生全部に行っています。それで、それは上手く行っていて、長生郡市内の中学校2年生の子どもたち全員が必ず救急救命講習を毎年受ける。消防署の方々とそれから救急救命講習の資格を取った人たちが行っていて、私もその中の一人に入っているのですが、去年も富士見中学校と茂原中学校で行いましたけど、そういう人も広域で講習をして資格を取らして、そういうことができているのですが、その中でそれを事務局としてやってくれているのが広域の芝崎さんという方なのですが、事務局の人がそういうものができる体制ができるかどうかというのがあるのです。だから各学校も体験をさせてくれる企業と連絡を取ったりするということに、その連絡を取ったりするのは誰がやるのかという、そこを作っていくと非常に難しく、事務局的なところをどこがやるのかというのを教育委員会として考えて、何かの方策ができていくとスムーズに学校との連携ができるのかなと、学校側もそういう人たちがきて教えてくれるというのは、それは有り難いことなので、ただいつどこでやるとか、どの時間にやるとか、そういうことの事務局的なことをやることの方策をどこかで考えてくれると、先ほど高貫委員のおっしゃっていたことと市長からもアイデア出されたことと先ほどの齋藤委員がおっしゃった特色のあるものができていって、それは茂原を愛するところにも繋がっていくのかなと思います。

それからいじめについては、これはいじめの予防ではないのですが、万が一どこかでいじめによる自殺者が出たときに、それから第三者委員会というのを立ち上げるのですが、できればその第三者委員会のシミュレーションのようなもの、そういうことが起きてからこの弁護士に頼もうかということではなくて、もしそういうことが起きたら、この人とこの人というのを決めておいて、それで年に一回位、例えばもし自殺が起きた時にどうするのかということを集まって検討する、そういうシミュレーション的なことをイメージしておく、何かあったときに速やかに対応できるのかなと思います。これはいじめの予防ではなくて、起きた時に備えてということなのですが、そういうこともやっておくと良いのかなと思っています。

以上です。

豊田教育部長
田中市長

： ありがとうございます。最後に田中市長お願いします。

： 本当に皆さん一生懸命考えてくれているので良いのかなと思っていますが、高貫委員が言われたのですが、学力の向上のための何かカリキュラムもいろいろ考えたということで、一つは塾にも行けない子どもというのも結構いるので、家庭的な問題とかいろいろありまして、そういう子どもたちを預かるようなボランティアで手伝ってくれるような寺子屋みたいなものがないかと、こういう案も前に話が出たりしていますので、できればそういったことでなかなか学校の勉強についていけない子どもたちもバックアップして、集めて指導できるようなそういう場所を提供できたらというような思いも持っています。

それと貧困が結構あるので、東京でも子ども食堂みたいなものをいろいろところで始めておまして、できれば茂原でも、先般五郷の人たちと話した中で、五郷地区だけでも子ども食堂を誰か受けてくれるようなところがあれば非常に助かるという話をさせてもらったのですが、その食堂を運営するのにすべては大抵ボランティアなので、寄付を仰がなくてはいけないと、その辺は行政でやってくれるのですかと、こういう話も出たりしていますので、何か機会がありましたらそういったことも頭に入れて対応していければなと思っています。これは非常に深刻な問題で、給食だけしか食べられない子どもがいて、例えば夏休みになると学校に来られないので、食事が取れないということで、困っているようなことが散見されておりますので、ここは真剣に考えていかなければいけないかなと思っています。

それから、職場体験については、市内の企業にはいろいろな角度からお願いをしておまして、中には職場体験等のコースを作ってくれておまして、これは学校の先生たちにできるだけ広めていただいて、利用していただければなと思っています。例えば、三井化学は工場の見学コースがあって、旧の三井東庄とイメージが違ってまして、いろいろな例えば自動車用の部品とかそれ以外のものとかをつくっているとか、行って見ないと分からない、見た段階でよく分からないかもしれ

ませんけれど、それはそれで聞いていただければ教えていただけると思いますし、沢井製薬は工場の見学コースをつくっているはずなので、これも製造過程のどういう仕事をやっているかというようなことを見られると思います。それからJDI、ジャパンディスプレイもそうですし、あとはもっと近場のところで言いますとガス会社ですね、茂原は天然ガスが出ていますが、その天然ガスはどういうふうになっているのというようなことで、これもおそらく現場で実際に汲み上げて、それをガスとヨード水とに分けて、ヨードはヨードでまた水を取った中で、ヨード液にするというような過程とか、こういったことも見ることによってまた子どもたちが興味を示せば、将来的にそちらの方向に向けていけると思いますので、これはそういう形で企業側にはそういう要請もしていますので、遠慮なく学校側が利用していただければなと思っております。

それから、鈴木委員が言ったように家庭だと思のです。市議会でも話をしたのですが、今の大きな問題は核家族化があまりにも進んでいるために、つまり昔みたいにおじいちゃん、親、子ども、さらには孫と四世代とか三世代とか同居するようなケースは稀になってきたのです。したがって、親は親で子どもたちの面倒を見るのもなかなか見きれない、あるいは自分の仕事に追われて子どもを放置せざるを得ない、昔はそれなりにおじいちゃん、おばあちゃんがいて、そういう中で子どもたちが見えないところで教わっているケースが結構あったと思うのです。あるいはそういうものを見て育っていたケース、ところが今それがまったくといっていいほど希薄化されています。一部その家庭もまだありますけども、なぜそれを言うかと言いますと、例えば先ほど言ったように茂原市の人口統計を見ても年々減っているのです。自然減が多くて、社会増というのはそこそこあっても大体横並びなのです。そうすると全体的には人数は減っている訳ですね。減っているのですが、じゃあ住まいはどうなのかというと、家の戸数は年々増えているのです。これはやはり核家族化、あるいは特に独居の高齢者の方たちの住まいがかなり増えてきていると、これもちょっと今問題になっているのですけど、茂原だけでもアパート等入れますと約6千世帯位あります。これはちょっと異常なのです。どの位まで集約できるか分かっていないのですけど、極論ですが9万人の内6千人も独居の高齢者だとなると、やはりこれはよっぽど目を光らせていかないとどういことがすぐ起きるか分からないので、見守り事業とかあるいは見守り隊の願いとか、いろいろな媒体を使って、例えば宅配便の業者、郵便局、警察とか、いろいろなありとあらゆる手段を使って見守っていただいているというのが現状です。これはおそらく全国そういう状況になってきていると思うので、したがって、そういった中での教育がどうしても希薄にならざるを得ないと思っております、家庭教育をもう一度見直していただかないとまずいかなと、先ほど言ったようにPTAと言ってもPTAの中で親同士の喧嘩をして、それが子どもに影響しているというケースも私のところにもいくつか報告がきてまして、そんなのは異常な世界なので、親のエゴで子どもたちが育つ訳ではなくて、またそういう親の姿を見ていると子どもとして碌な子どもに育っていかないと経験上思っておりますので、それはやはり避けていった方がよいと思いますので、それを止めるのは難しいのですけど、やはりどこかの時点でそういうことを言っていないといけなかなと思っております。

それと、もう1つ特色のある教育ということをやはりよく言われます。教育長が言ったように、茂原でも英語に対しての力を入れようとしております。これは実際の教育上の問題を見ていくと、多言語化というのが、第一外国語、第二外国語と、大学へ行った場合にはそういう選択肢があるのですが、小・中・高でもそういうような捉え方をしてもいいのではないかなと思っております、とにかく早い時期から言語に慣れさせると、特に基礎的な要素としては英語だと思っておりますので、英語に対する教育は民間も交えて取り組んだ方がよいのではないかなと思っております。これは民間の方で、海外に赴任していて英語はしゃべれるのだけど、何か使ってくれないかというケースもありまして、ただその人のポジションをどうするかというのが問題になってくるので、そういったポジションをきちっと方向性を出してやれば、茂原は小学校でも英語がペラペラだよというような話になれば、保護者の方たちもそれなりに魅力を感じて茂原に住もうかということにもなってくれるのではないかなと思っておりますし、とにかく一日フルで全部英語とこういうような試験をやっても良いかなと、一切日本語は話させないと、企業ではもう取り組

んでいます。公用語を日本語ではなくて英語にしている企業も相当ありますので、そういったことも思い切って、一日あるいは半日取り組んでみるというようなことをやると、それはなかなか難しいですが、言うのは簡単だけど、でもそれをやればそれなりのインパクトはあると思います。それをやるかやらないかというのは、その教育の現場の問題だと思っていますので、その方向性をきちっと出して、早めにやっていけば、それなりの魅力のある教育を展開してくれているなどという思いが繋がっていきます。

それと先ほど言ったAED、心肺蘇生を今やらせています。これは何でやらせているかと言いますと、実際に心肺蘇生を習った中学校2年生の子が、親が校長先生だったので、急に具合が悪くなって、それで誰かがやらなくてはいけないということですが、奥さんはあたふたして、そこで中学生の子が習ってきたということでやったのです。それで一命を取り止めて、今は元気になって活動しているという事案があります。こういう事案がその後も一例位起きていますが、実際にそういうことが起きると、やはり自信にもなってきますし、それからやったことを広めることというのが教育上非常に良いかなということで、広域の中では医療整備室だったのですが、課に格上げしまして医療整備課というようなことで、それから医師会の方も宍倉先生と清水先生に協力をいただいて、全般的にとにかく広めていこうと、それから消防にも協力させていますから、これは良いことだと思っています。中学校位まではおそらくやらせていますから、これはもう自信になってくるといいますので、何か起きた時には役に立つと思っています。こういったことも茂原以外はあまりそこまでやっていないと思うので、そういうこともどんどん広めていきたいと思っておりますので、まんざら何もやっていないということではないので、ご理解をしていただければと思います。

難しいのですが、方向性としてはここに書いてあるようなことで良いのかなと、また、今ご意見いただいたことを集約して、行政側としては協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

豊田教育部長 : ありがとうございます。それではいろいろと意見をいただきました。何かご質問等がございますか。また他の意見でも、質問も何かありますか。特にありませんか。

それでは、今いただきました子どもの貧困、それから家庭教育の徹底、特色ある教育、職場体験、学習指導要領の準備等をまた平成29年度の取り組みの中で具体的に実施できるものはしていきたいと思っております。ありがとうございます。

それでは、次に「今後の日程等について」を事務局から説明をお願いします。

久我 教育部次長 : 次回の日程でございますが、9月27日の水曜日、15時から予定しております。議題につきましては、「学校再編計画について」、「平成30年度の事業に関わる協議」、この2点を予定しております。決定次第、開催通知を送付させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それから、本日の会議録になりますが、前回と同様に来月末までに作成いたしまして、決裁後ホームページで公表していきますので、ご了承いただきたいと思います。

豊田教育部長 : それでは、今回は9月27日の15時ということでお願ひいたします。その他に、何かございますか。なければ本日の議事はこれで終了いたします。

川崎教育総務課長補佐 : 皆さんお疲れ様でした。以上をもちまして、平成29年度第1回総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

各構成員 : ありがとうございます。